

<英文法超基礎⑧2> Lv.★★★★☆☆ 仮定法②(L72)

1 仮定法過去完了

仮定法過去完了は「あのとき、ああだったらそうしてたのに」と(1.)の
事実と反することを表し、

(2.)

という形をとる。

(例) If I had studied harder, I could have passed the exam.

「もし(あのとき)もっと勉強していたら、私はその試験に合格できただろう」

→ if節のところで、過去実際そうではなかったことを過去完了(had + Vp.p.)で表し、

帰結節のところで「could have Vp.p.」とすることで、「あのときこうだったのに…」を表す。

2 仮定法過去と仮定法過去完了のミックス型

if節で(3.)の事実と違うことを想像し、帰結節で(4.)の状況を
述べる場合、

(5.)
「6. 」

の形で表す。

(例) If I had saved some money, I could have my own car now.

「もし(あのとき)お金を貯めていたら、私は今頃自分の車を持っているのになあ」

☆ミックス型の問題ではほぼ100%の割合で、帰結節に(7.)や

(8.)などの現在を表すことばがくる! (それが目印になる!)

※「不変の真実」を仮定する場合

If I (were / had been) you, I would have said such a thing.

→ 帰結節が仮定法過去完了になっているので、if節は「If I had been」と
考えられるが、「私はあなたではない」という「不変の真実」に反する仮定をする
場合、「あなたになれない」という真実は、特定の過去に限らず、現在を含むどの時点
でも当てはまるので、if節内の動詞は仮定法過去の(9.)で表す。

③ 未来に関する仮定

① (10.) : 「11. 」

If he should come back, I will [would] call you at once.

「万が一、彼が戻ってきたら、すぐにあなたに電話します」

※ 帰結節に will (助動詞) を使う場合もあれば would (助動詞の過去形) を使う場合もある。使い分けは **話し手がどれくらい (12.) と判断しているか** で

「まずあり得ない」という気持ちなら (13.)、「ひょっとしたらあるかも」という気持ちなら (14.) を使う。

< should 型の仮定法 >

If S' should V~, { S+ (15.) }
(16.)

★ 帰結節に (16.) を使うことができる仮定法は should 型のみ!

② (17.) : 「18. 」

If it were to rain tomorrow, he would be disappointed.

「もし仮に明日雨が降れば、彼はがっかりするだろう」

< were to 型の仮定法 >

If S' were to V~, S+ (19.) + V~.

→ 帰結節の助動詞は必ず (20.) になる!

→ (21.) で表すこともできる!

If I had time tomorrow, I could go with you.

「もし明日私に時間があるなら、あなたと一緒にいけるのになあ」

→ 「架空の未来」にも「遠回しな提案」などにも用いられる。

④ wish 系のまとめ

① ㊟ wish S' + (22.) : 「23. 」

I wish I had finished my homework yesterday. 「昨日、宿題を終わらせておけばなあ」

② ㊟ wish S' + (24.) : 「25. 」

I wish I were younger. 「もっと若ければなあ」

← 過去の事実に対する願望
← 現在の事実の反対

③ ㊟ wish S' + (26.) : 「27. 」

④ ㊟ wish S' + (28.) : 「29. 」

← 未来に対する願望